

猿橋  
小学校

# 瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

## 心を耕す

校長 磯部 裕之

毎年、この季節、田んぼに水が入ると聞こえてくるのが蛙の声です。それはもう、よくもまあこんなに土の中にいたものだと思うくらいの大合唱です。でも、この蛙の大合唱が聞こえてくると、いよいよ寒い春から暖かな春へと季節が移っていくようでうれしくなります。

4月20日から5月4日までを、二十四節気の一つ「穀雨（こくう）」と呼ぶそうです。「雨降って百穀を潤す」という言葉があるそうで、柔らかく暖かな雨が降り田畑を潤す時期という意味とのことです。いよいよ植物たちも枝葉を伸ばす時期がやってきたということでしょう。

学校の教材園は、用務手さんが、雪が降る前に1回、雪が解けた後に1回、苗を植える前に1回と、何度も耕して準備をしてくださっています。土を掘り起こして天日に当てて、病気に強い土、根を張りやすい土にすることは、丈夫に育てるためには欠かせません。田んぼでは、「田おこし」や水の入れた後に行う「しろかき」などが、この作業に当たります。

「耕す」という言葉は、ときに、「心」にも使われます。「心を耕す」とは、いったいどんなイメージでしょうか。

私は、こんな風に捉えています。自分が今まで生きてきた中で、ある程度固まってしまった見方や考え方を、何かの体験や経験、人から聞いた話などをおして、新しい見方や考え方にあらためていくというようなイメージです。土の話で言えば、水や養分を吸収する力、人の話を受け止めたり、自分自身で大事なことに気付いたりできる心の柔軟さが大事になってくると言えます。



【雨の朝、1年生の傘をすぼめる6年生】

新学期が始まってこの1ヵ月、どの学年も張り切って過ごしてきました。1年生は、幼稚園・保育園とはまったく違う小学校の生活リズムに、毎日新たな発見をしながら学びを積み重ねています。6年生は、1年生のサポートなどをおして、これもまた新しい発見や喜びを感じてくれています。こう考えると、学校生活一日一日が新たな発見や経験の連続であり、子どもたちは日々の生活の中で「心を耕して」いると言えるのかもしれない。

つながり高め合いながら日々成長していく子どもたち。昨年度は創立150年の節目の一年でした。

猿橋小学校は、今年度、151年目の年に入ります。子どもたちが安心して学び、体も心も成長していけるように、職員一同、全力で教育活動に取り組んでまいります。保護者の皆様、地域の皆様と手を携えて進んでまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。